

様式第2号 松戸市

視察研修先	千葉県松戸市	氏名	阿部 清
視察研修項目	子育て施策について（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）		
<p>感想・所見など</p> <p>概要</p> <p>松戸市は、千葉県で3番目に大きい人口497,342人。昼夜人口比率が82%で全国的に見ても低く、ベッドタウン化現象が続いている町である。</p> <p>感想</p> <p>1. 小規模保育所の推進について</p> <p>0歳児から2歳児の保育の需要が多く、対応するために、整備期間が短く整備コストが安価に上がる物件を探し、市内全23駅の駅ナカまたは駅前に整備をした。利便性の観点から、通勤時に電車を利用する保護者の利用が増えており、フルタイムで就労している共働き世帯の利用が増えている状況がある。</p> <p>2. 幼稚園預かり保育事業の拡充について</p> <p>幼稚園の教育を受けさせたいものの、預かり時間や経済的な理由から利用できない世帯が存在していた。市の働きかけによる預かり保育の延長や金銭的補助を行うことにより壁を取り除いている。</p> <p>国補助額1人450円×20日＝9,000円プラス市助成26,000円により自己負担なしで、市内に36ある幼稚園中24園が長時間の預かり保育を実施しており、幼稚園の空き定員対策にも貢献している。</p> <p>3. 送迎保育ステーション事業について</p> <p>幼稚園の空き定員を活用し、小規模保育施設卒園児の受け入れ先を確保している。小規模保育事業により、そこを卒業した児童の受け入れ先を確保する必要性が生じたことから幼稚園の空き定員を満たすための取り組みにより、待機児童解決にも一役買っている。待機児童8年連続ゼロである。</p> <p>本市においても、待機児童はないが、遠距離の保育園に通園するなど、子育て世帯は苦労しながら通園している状況にあると聞く。安心安全なまちづくりとして、行政の対策をもう一步前向きに考えることが求められる。</p> <p>例 遠距離通園にならざるを得ない時は、現在ある通園バスを活用しての送り迎えも考えることのできる施策も必要である。</p>			

様式第 2 号 昭島市

視察研修先	東京都昭島市	氏 名	阿部 清
視察研修項目	アキシマエンシス（昭島市教育福祉総合センター）について		
<p>感想・所見など</p> <p>概要</p> <p>東京都多摩地区に位置し、水道水は100%地下水で賄っているまちである。昭和36年に市内の多摩川河川敷から鯨の化石が発見された人口114,000人の町である。</p> <p>感想</p> <p>アキシマエンシス（昭島教育福祉総合センター）について視察研修を行った。</p> <p>子供の減少により、統合された小学校の跡地を利用して、教育関連施設や児童福祉関連施設を集約し、市民の交流の場所の拠点としてアキシマエンシスを建設している。</p> <p>旧小学校を外装、内装工事で作り直し、廊下で繋いでアキシマエンシスを増築している。40万冊をそろえた余裕のある図書館だが、図書館の概念を払拭し、市民と市民をつなぎアキシマの今と未来につなぐ場として、自ら課題に向き合い、必要とする知識や情報を得ることが出来る場所として完備、人とのつながりを見つける場、昭島の未来を育む場をコンセプトに、市民図書館・郷土資料館・教育センター・子供家庭支援センター・男女共同参画センターが連携した複合施設としてオープンしている。入り口には、市民に愛されているアキシマクジラ（13,5m）が天井からつるされて市民を迎えていた。図書の出し入れも機械化して、100冊の本を選んで出すまで4分という。施設は指定管理者が運営しており、指定管理者ならではの取り組みが随所に見られ、また、その対応の良さから市民に親しまれているとのことである。</p> <p>本市において、図書館の指定管理運営を行おうとしているが、本市の経営企画と事業企画の方向性がまとまっていれば問題ないと考える。指定管理者のノウハウも大きな要素を含んでいると思っているので頑張してほしい。</p>			

様式第 2 号 大和市

視察先	神奈川県大和市	氏 名	阿部 清
視察項目	「おひとりさま支援条例」と高齢のひとり暮らしの方を支援する取組について		
<p>感想・所見など</p> <p>概要</p> <p>神奈川県のはぼ中央に位置し、市政施行時特例都市に指定されており、東京都への通勤率は15.3%、横浜市への通勤率は18.3%で穏やかな人口増加が継続している人口24.2万人の県内で川崎に次ぐ2番目のまちである。日本一の図書館のある街でもある。</p> <p>感想</p> <p>1. おひとりさま支援条例と高齢のひとり暮らしの方を支援する取り組み</p> <p>近年、長寿化・核家族化といった社会構造の変化により、一人暮らしの高齢者が増加し、「人生100年時代」の到来が現実味を帯びる中、安心して暮らせる社会づくりが必要とされていることから、条例でおひとりさま支援を採択し、「健幸都市やまと」を標榜し高齢者の孤立や健康問題を取り上げ支援している。行政の支援というよりも本人の行動が前提であり、周りの声掛けや市民の代表である議会も納得しての取り組みである。</p> <p>2. 一人暮らしの方を支える支援の取り組み</p> <p>高齢者の終活支援として、一人暮らしの高齢者のうち自身の葬儀、納骨について不安を抱える方に支援をしている。高齢者にはエンディングノートを作成し「これ1冊あれば一人暮らしも安心」の生活お役立ちガイドを発行しており、救急から、生活支援、介護保険、健康づくり、財産管理、葬儀などの相談窓口支援をしているが、都会ならではの取り組みのように感じた。</p> <p>2050年問題の問題もあり、高齢者対策の必要性を考えていくことは必要である。</p>			

様式第 2 号 富士見市

視察先	埼玉県富士見市	氏名	阿部 清
視察項目	フレイルチェック事業について		
<p>感想・所見など</p> <p>概要</p> <p>市内に東武東上線の駅が 3 駅ある歴史を繋いできたまちである。3 駅とも池袋まで 30 分以内で、通勤、通学や遊びに行くにも便利なまちである。人口は 1 1 万人</p> <p>感想</p> <p>フレイルチェック事業について</p> <p>東京大学高齢社会総合研究機構がプログラムを開発した東大式の「フレイルチェック」を導入し、「市民による市民のためのフレイル予防」の取り組みをしている。高齢者の高齢化による要介護や認知症の増加、高齢者独居世帯や高齢者のみの世帯の増加やコロナ禍による活動低下などが問題化しており、高齢者の健康寿命延伸や生きがいをめざし健康福祉部が担当している。フレイルチェックは全国で 2 6 都道府県 1 0 1 市区町村が取り入れているようだ。近くでは、仙台市や秋田市が参加しており、我々も、フレイルチェックに参加、栄養、運動、口腔、社会性・こころのチェックを受けたが合格するのにギリギリの状況がある。自分の節制や体を動かすことの必要性を感じた。</p> <p>本市でも、健康づくり、介護予防、ストレス解消に役立つとして「スカット (S. K. A. T) 体操」を行っている。自分のからだのチェックを行い自分の体調を確認しながら体を動かし目標を持ちながら運動することが長続きする一歩と感じた。</p>			